

121218 越冬するトンボ

12月になってかなり冷え込む日も多くなってきましたが、日中、日が射して暖かく感じる日もあります。

そのような日は、成虫で越冬する「テントウムシ」や「チョウチョ」などの姿を見ることもあり、寒い日は一体どこで過ごしているのだろう、と疑問に思ったりします。

さて、トンボの仲間にも、成虫で越冬する種がいることをご存じでしょうか？

日本には、体長100mmを超える大型の「オニヤンマ」から、20mmほどの「ハッチョウトンボ」、それにか細い「イトトンボ」の仲間まで、200種類くらいが生息しており、その多くが幼虫(ヤゴ)の形態で冬を越すのですが、わずかに3種のみが成虫で越冬するのです。

そして先週、河川沿いの農地で、その3種の中の1種に出会うことができたのです！

名前は「オツネントンボ」というイトトンボの仲間、体長は約40mm、褐色を基調とする地味な体色で、ややがっしりとした感じがします。

翅は閉じてとまるのですが、その時、前翅と後翅の縁紋が重ならないでずれることが、この種の特徴です。

ちなみに「オツネン」とは、冬を超す“越年”という意味ですね。

成虫で越冬する他の2種のトンボは、「ホソミオツネントンボ」と「ホソミイトトンボ」で、いずれも“イトトンボ”の仲間なのです。

「オツネントンボ」は春～初夏に、水辺や水面から突き出た植物の茎や葉に産卵します。

6月末頃から羽化が始まり、翌年の春に成熟して交尾・産卵、6月頃までの1年くらいが寿命のようです。

写真 ・ ： オツネントンボ 【撮影：12月中旬】

田んぼの脇の法面に立てかけてあった「竹」にとまったところを撮影しました。
飛び立って周辺の枯れ草などにとまると、見失ってしまいます。

写真 ： オツネントンボ 【撮影：5月上旬】

越冬して成熟した個体です。
脚を縮めて伏せるようにとまる様子は、この種ならではの独特の姿勢ですね。
成熟すると、この個体のように複眼が少々青くなるようです。

写真 ： オツネントンボ 【撮影：5月上旬】

産卵しているペアです。







